

3.1 造林地のツル類の防除

1. 試験担当者

北海道支場造林部造林第二研究室長 林 敬太 ほか

2. 試験目的

本道におけるツル類の分布と生態を明らかにするとともに、造林木にたいする被害の実態を究明し、適確なツル切り等の時期および薬剤防除等、合理的なツル防除方法を究明する。

3. 昭和44年度の経過とえられた結果

1. ツル類の生態と防除に関する既往の文献を集収し、検討をおこないその問題点を明らかにした。
2. ツル類激繁地におけるツルの分類と造林樹種別被害実態を恵庭、白老、余市事業区において調査し、被害分類の基礎資料を得た。

この結果、木本性のツル類の被害分類は、造林木にあたえるツルの生長特性と被害の形態から、ヤマブドウのように被害が主に被覆によるものと、ツルウメモドキ、コクワ等のように幹の締めつけによるものとに分類する必要があることが認められた。

3. ツル類が造林木にあたえる被害は、幼令造林木ではトドマツに比較してカラマツが大きく、生長量の減退が明らかであった。

4. 昭和45年度の試験計画

1. 道南地方におけるツルの被害実態と被害分類についての基礎資料をうるために調査を実施する。
2. ツル切りによる被害の抑制効果を検討するためにヤマブドウ、ツルウメモドキについて切断時期を変えて試験する。
3. 薬剤防除の予備試験としてホルモン系除草剤によるツル体内挿入処理の可否と効果について検討する。
4. ヤマブドウの生態及び被害の機作、防除方法等を基礎的に解明するため、支場構内に増殖する。